

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
A104	日本語基礎Ⅱ	1年	講義	2	石井誠
<b>授業概要</b> 1週間に2回の授業を行う。授業は講義形式ではなく、教室内で学生自身がさまざまな活動を行う形式である。繰り返し日本語を使った言語活動の練習をする。このことにより、日本語による情報収集、情報の整理、情報の発信ができるようになり、外国人留学生在が専門科目の学習をする際に支障がないようにする。教室活動では自分の意見の発表、友人との討論なども行うので、積極的な参加を期待する。					
<b>到達目標(学習の成果)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語の読解、文章による表現、口頭発表の能力が向上する。(DP1「コミュニケーション力」)</li> <li>大学祭で開催される留学生日本語スピーチコンテストに参加し、トピック選定、原稿作成、発表練習、本番スピーチという一連の過程を通じて日本語を使った口頭表現力の充実を体験する。(DP2「情報力」)</li> <li>学期の最後には基本的な研究計画書を作成できるようになる。(DP2「情報力」)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>					
回	表題	学修内容			
1	読解編 第8課 導入	テキスト本文を学習し、位置を表す表現の使用法を練習する。			
2	読解編 第8課 文法学習	本文漢字テスト、条件を表す従属節、間接疑問文の使用法を学習する。			
3	スピーチの題材選定	各自の興味に基づき自分のスピーチのテーマを考える。			
4	読解編 第9課 導入	テキスト本文を学習し、各自の出身国の数の示し方について討論する。			
5	読解編 第9課 文法学習	本文漢字テスト、列挙と順序の表現法を学習、接続表現の使用法を練習する。			
6	スピーチ構成検討	各自が選定したテーマに基づきスピーチの構成を考える。			
7	スピーチタイトル決定	各自スピーチのタイトルを決め、登録する。			
8	スピーチ原稿作成	自分が決めたテーマ、構成に基づきスピーチ原稿を作成する。			
9	スピーチ資料収集	必要に応じ、資料を収集し原稿作成を進める。			
10	スピーチ原稿読み合わせ	完成した原稿をクラスメート、教員に読んでもらいフィードバックを受ける。			
11	スピーチ原稿修正	受けたフィードバックをもとに原稿修正作業を行う。			
12	スピーチ発表練習	クラスの中でスピーチ発表練習を行い、お互いに講評する。			
13	スピーチ原稿改訂	講評に基づき、自分のスピーチの改訂作業を行う。			
14	スピーチ改訂版発表練習	実際のスピーチコンテストの状況を再現し、模擬発表を行う。			
15	スピーチ最終原稿の作成	模擬練習の成果を踏まえ、最終原稿を完成させる。			
16	読解編 第10課 導入	各自の出身国で茶がどのように呼ばれているか考察し、情報交換する。			
17	読解編 第10課 文法学習	本文漢字テスト、理由・根拠の表現形式を学習、接続表現について整理する。			

18	作文編 第10課	引用の仕方を学習し、引用文作成練習を行う。
19	作文編 第11課	順接、逆接の接続詞の使い方を学習し、例文作りで練習する。
20	作文編 第11課 作文作成	解決策を提案する文章を作成する。
21	読解編 第11課 導入	テキスト本文を学習し、筆者の意見を表明する表現の種類を学ぶ。
22	読解編 第11課 文法学習	本文漢字テスト、漢字の成り立ちを復習、反語疑問文の練習をする。
23	作文編 第12課	さまざまな接続表現の用法を学習する。
24	作文編 第12課 作文作成	接続表現を使い、作業手順を説明する文章を作成する。
25	読解編 第12課 導入	テキスト本文を学習し、語彙の理解、学術論文の読み取り方を学ぶ。
26	読解編 第12課	本文各段落の要約練習を行い、内容理解を深める。
27	読解編 第12課 応用練習	本文漢字テスト、学術論文の作成法について理解を深める。
28	作文編 第13課	指示詞の使い方を学び、指示詞の使われた文章の読み取り練習を行う。
29	作文編 第13課	指示詞を使った文章を作成する。
30	作文編 第14課	研究計画書の書き方を調べ、自分自身のテーマと構成を考える。

#### 準備学修(授業外の自己学修)

読解編の授業のときは教科書本文に読めない漢字がある場合、事前に調べて、音読できるように予習しておく。授業のあとは各自、音読練習、漢字の書き取り練習を繰り返しておくこと。作文の授業では時間内に書き終わらなかった作文を宿題とするところもあるので、その場合は図書館などを利用して書き上げ、期限までに提出すること。スピーチの原稿作成は授業内では十分な時間が取れないこともあるので、各自課外の時間を利用して作業を進めること。

#### 成績評価の方法・基準(%表記)

大学祭スピーチコンテスト(40%)、期末試験(40%)、漢字などの小テスト(10%)、課題提出(10%)などを総合的に評価する。

観点	S	A	B	C
教科書にある基本的な漢字を理解し、自身でも正確に表記する。	正確に理解、表現ができる	ほぼ問題なく理解できる	おおむね理解できる	部分的に誤りが見られる
教科書の内容を正確に読み取る。	正確に理解できる	問題なく理解できる	おおむね問題なく理解できる	おおむね可能である
自身の意見を表明できる(口頭、文章)。	相手を説得することができる	自由に意見表明できる	伝えたい内容が伝達できる	おおむね伝達可能

#### 教科書

『改訂版 大学・大学院留学生の日本語①読解編』、アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク、2015年、1,728円

『改訂版 大学・大学院留学生の日本語②作文編』、アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク、2015年、1,728円

#### 参考書等

『留学生のための ここが大切 文章表現のルール』、石黒圭・筒井千絵著、スリーエーネットワーク、2009年、1,728円

『初級からの日本語スピーチ』、国際交流基金関西国際センター編、凡人社、2004年、2,268円

#### 履修上の注意・学修支援

1週間に2回の授業を行い、両方を受講して2単位取得となる。全授業日数の2/3以上出席しないと期末試験の受験資格を失う。受講生は日本語基礎Ⅰ修了程度の日本語力を必要とするので、このレベルに達しない受講生は補習授業を受講すること。課題は必ず提出すること。受講するクラスは指定されるので、教員の指示に従って受講登録すること。